

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念としてパンフレットに掲げている。	○ 今後はもっと地域を知り、経験や知識を元に、事業所独自の理念としてこれでいいかどうか今後も職員皆で常に考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に経営者から経営理念や事業所への思いについて説明を受けており、それぞれが理念に向けてケアにあたっている。	○ 日頃の業務や会議等で話題とし、常に全職員で認識、共有し、理念に向けて日々のケアにあたりたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームとしての事業所の役割や、パンフレットに掲げた理念についての説明を行い、経営者や職員の思いを伝えている。運営推進会議において地域の人にも理解してもらえよう努めている。	○ 家族の方へはもちろんのこと、地域の人々に理解してもらえよう啓蒙活動していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	一般住宅の中にある為、時々顔を合わせる事があるが、気軽に挨拶や会話を交わしたりできており、隣近所とのいい関係は築いていっていると思う。	○ 挨拶のついでや、運営推進会議の帰りに立ち寄ってもらったりしているが、まだまだ気軽にというまでには至っていない。今後は、積極的に働きかけていき、地域の仲間としての意識を高めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を得てはいるが、地域の行事や活動への参加は今のところ行っていない。	○ 自治会会員としての認識を職員全員で高めていき、地域の人達と気軽に交流できる様になりたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところ取り組みはない。	○	グループホームとしての地域の中での役割について会議等で話し合い、小さな事から取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての評価ということで、その意義について職員全員で共通理解に努めた。	○	今回の経験を活かし、職員全員で今回の調査の意義を確認し、評価する事で見えてきた改善すべき問題点等に真摯に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初回開催が遅れ、これまでに2回(5月、7月)しか行っていない。初回は家族や自治会の方々、地域包括支援センターの職員、ご近所代表の人達等、たくさんの方々の参加を頂いた。運営者側から事業所の思いを伝え、地域の方々へのご協力をお願いをし、それぞれ意見交換を行い、有意義な会となった。	○	会議にて出された意見を活かしていく為、地域に根ざした事業所としての役割を果たして生きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮崎氏から案内のある研修等へはできる限り参加するように努めているが、情報を得る程度に留まっており、積極的に行き来し、いっしょに取り組むという事はできていない。	○	制度の解らない事等なかなか相談できていない。積極的に行き来する機会をつくり、気軽に何でも相談できる関係づくりに努め、事業所のサービスの質の向上について、いっしょに取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の一人がこの制度を利用しており、毎月1回又は随時の訪問を受けている。預貯金や通帳の管理等においても助かっている。	○	権利擁護や成年後見制度については学習不足と思っている。研修等に積極的に参加し学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	それぞれの職員の認識に任せている状況である。今のところ本人家族等からの苦情はないが、何でも言える関係づくりにつとめている。	○	研修会等で虐待について学び、職員全員で共通理解に努め、事業所内で機会ある毎に話題に上げ、虐待防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には必要な説明を行い、疑問点等を尋ね不安の解消に努めているが、細かい部分については後で説明書を読んでもらっている。今のところ問い合わせ等ほとんどないが、読まれているかどうかの確認は行っていない。</p>	○	<p>契約書や重要事項説明書等については日頃から全職員が周知、理解しておき、いつでも説明ができる様にしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が何でも言える雰囲気づくりや声かけに努めている。又、利用者の言動や表情等で不安や言いたい事等を察するように心がけている。</p>	○	<p>利用者が、どの職員に対しても何でも自由に不満や苦情を言ってこれる様な関係づくりに努め、不安の無い生活を送ってもらえるようにしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>封書で毎月の利用料を請求しているが、その際利用者の状況を簡単に書き添えた手紙を同封している。面会時には利用者の近況を話し、又、面会で家族が感じたこと等を話してもらい、その後のケアに生かしていくようにしている。</p>	○	<p>体調の変化があったりした時は、その状況やその後の経過について電話で連絡している。必要時は家族に相談の上病院受診を計画し、家族ができない時は事業所に対応している。今後も臨機応変に対応し、家族と共に利用者を支えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何でも言える雰囲気づくりに努めている。</p>	○	<p>これまでに家族からの意見や不満、苦情等は出されていないが、遠慮もありなかなか言い出せないのではという事も考えられる為、今後は更に遠慮なく言える関係づくりに努めたい。又、出された意見等は早急に運営に反映させていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃の業務の中や定期に行う会議において、自由に意見や提案を出してもらい、皆で話し合うことでその後の業務やケアに活かしていくようにしている。</p>	○	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や病院受診に付き添う等、職員の人員確保が必要な時等は柔軟に対応し、勤務の調整を行っている。</p>	○	<p>利用者の安全を第一に勤務の調整を行うよう心がけていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>自己の都合により一人離職しているが、離職後も何度か訪問に来てもらっており、利用者が懐かしがったりする様子がみられていた。</p>	○	<p>今後も、異動や離職があっても気軽に尋ねてきてもらえるような関係を築いておき、利用者へのダメージを防ぎたいと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>案内してくる研修等に対しては、業務に支障のない限り参加の機会が与えられており、出来る限り参加するようにしているが、職員によっては消極的である。</p>	<p>○</p> <p>研修の意義を理解し、今後は計画的に受けるようにし、得られた知識や情報を元に勉強会を重ね共通理解に努めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者はGH協議会や地域包括支援センター等で交流する機会を持ち、他事業所等へも訪問し情報を得るようにしているが、まだまだサービス向上への取り組みはできていない。</p>	<p>○</p> <p>地域の同業者との相互訪問等の交流は機会ある事に行い、気軽に情報を交換し、サービスに活かしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務の煩雑さはなく、残業を行う状況にはないが、その他の面においてのストレスに対する工夫や環境づくり等は行っていない。</p>	<p>○</p> <p>職員がゆっくりプライベートに休憩を取れる場所が無く、課題となっている。職員間でお互い何でも言える人間関係を築いていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日頃の業務の中で職員の勤務状況を把握するように努め、研修への参加や資格取得等の機会が持てるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>常に職員に対し、向上心につながる様な励ましのことばかけを行い、お互いにレベルアップしていきたい。つついできていない点に目が向いてしまっている為、今後は努力している点等を褒められるように努めたい。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話をよく聴き、ことばかけに心がけ、本人のことをよく知ること</p> <p>に努めている。</p>	<p>○</p> <p>早く馴染みの関係が築けるようになりたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>どんな小さな事でも話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族の立場をよく理解し、遠慮のない人間関係づくりに努め、信頼関係を築いていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いをよく聴き、まずは、不安なく安心して過ごしてもらえるように対応している。	○	早いうちに、まず必要としている支援を見極められるように努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは安心してもらうことに心がけ、徐々に落ち着いて過ごしてもらえるように職員や他の利用者との交流の機会をつかっていっている。	○	事業所内で学習会を開いたり、研修を受けることで高齢者や認知症の人達の気持ちをより理解できるようになりたい。
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の過ごし方で自由に過ごしてもらっており、活動やレクリエーション等にも本人の意思で参加してもらっている。いっしょに楽しんだり、話をしたりする中で、いろいろと学ばせてもらっている。	○	本人に自分の家で過ごしているという気持ちになってもらい、職員も家族の一員という気持ちで接し、いっしょに過ごしながら喜怒哀楽を共にできるという関係づくりに努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を面会時や電話等で伝え、現在の利用者の状況を共有できるように努め、家族と共に本人を支えていくという意識を持つようにしている。	○	ややもすると職員で本人を支えているという感覚に陥らないように留意し、家族とのいい関係を築きいっしょに支援していきたい。家族会を発足させ、他の家族との交流の機会をつくりたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の時間を制限することなく、いつでも気軽に面会できるようにし、本人と家族水入らずで話せるように自室でゆっくりしてもらっている。長期間家族との連絡が途切れる事がないよう面会を促したり、電話連絡を行っている。	○	お盆や正月行事や墓参り等、出来る限り家族と過ごしてもらおうよう声かけしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外では親戚等の訪問があるが、知人や付き合いのあった人等の来訪はほとんどないが、事業所としてはいつでも気軽にきてもらえるようにという思いでいる。	○	年賀状や暑中見舞いの代筆等の支援を行い、電話の取次ぎには気軽に応じている。今後は、今まで過ごしてきた場所にも出向いて行ったり、馴染みの人に会いに行ったり等取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールに集まりゲームをしたり、食事やおやつの時間をいっしょに過ごしたりすることで、楽しんでもらっており、利用者がお互いの存在を認め、声かけあったりできるように支援している。	○	利用者と職員がいっしょに楽しめるような行事やレクリエーション等を考えたり、ひとり一人に合わせた楽しみ方を考える等取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な連絡は行っており、入院中の病院への面会にも行き、様子を把握するようにしている。	○	情報の提供等を行い、いつでも相談に応じられるようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子等から、本人の思いや希望を見極められるよう努めている。	○	何気なく会話したり、又、日頃利用者と接する中で、本人の思いや希望が見極められるように、日頃から本人をよく知ることに努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話の中で、昔話等を聞いたりして情報を引き出すようにしており、それを元にケアに活かしていくように努めている。	○	よりその人らしく過ごしてもらう為には、これまでの生活環境や馴染みの暮らし方を知ることが大切と思われる為、全職員でしっかり把握できるように努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとり一人の一日の様子については、健康面や精神面等全ての面から把握するようにしている。	○	問題意識を持ち、ひとり一人をより総合的に把握できるように努め、ケアに生かしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状況把握に努め、本人や家族の思いに添えるよう、そして安心安全な生活が送れるような計画を作成するよう努めているが、まだまだ不十分であり、アイデアを活かした計画とはなっていない。	○	職員それぞれの特技や介護経験を活かし、ひとり一人に合ったサービス計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	それぞれ担当を決め介護計画を元に状況の把握と計画の見直しを行っている。利用者に変化が生じた場合は早めの対応を心がけ家族へも相談しているが、十分な時間をかけて話し合うことがなかなかできていない。	○	本人の状況の変化に即した計画になっているか、本人や家族の思いに添ったサービスになっているか常に見直していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や気づきについては個別の経過日誌に記録し、日頃と違う状況等については特に注意して申し送るようにしている。	○	職員間で気づきや記録の仕方等に差があり、まだまだ不十分な記録となっている為、定期的な勉強会を計画し、介護計画に沿ったよりよい記録ができるように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診等、家族対応が困難な時は事業所で対応する等柔軟な支援を心がけている。	○	今後も、本人や家族の要望等には出来る限り応えていけるように努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員の方に参加してもらっているが、情報を提供してもらっている程度にとどまっている。	○	今後は、民生委員をはじめ他の機関等とも交流の機会を設け、情報を提供し合うことで利用者の支援に活かしていけるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修会等で他の事業所の方との出会いを大切に、それをきっかけに交流を深め情報の交換を行い、支援に活かしていくように努めている。	○	もっと積極的に他事業所に出向いて行き、先輩事業所さんの指導を仰ぎたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度を利用している利用者がおりとても助かっている。	○	地域包括支援センターとの連携を大切に、協働してケアマネジメントし、本人を長期に支え支援していけるよう努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者がかかりつけ医の為、いつでも、又は急変時や突発的な状況が生じた時等、適切な医療を受けることができている。	○	本人が自分で訴えられない事や状態を、職員が適切に伝えられる様に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症の専門医である為、いつでも状態についての相談ができています。	○	主治医とは情報の共有に努め、いつでも相談できるように努めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が主になり、日常の健康管理に努め、注意点等を共有し、異常に気付いた時はすぐに報告、対応できるようにしている。	○	看護職と介護職との関係が保てるよう、医療ばかりがあまり前面に出ないよう留意している。今後は、計画的に高齢者の健康についての勉強会等を行い、更に利用者の健康管理に努めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	これまでに1例ある。入院中は毎日の様に職員が交代で面会し、状態が落ち着いたら筋力低下が進まないよう、出来る限り早く退院してもらえよう情報交換に努めた。	○	今後も出来る限り早いうちに退院できるように、病院との連携に努めたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変し入院に至った例が1例ある。	○	重度化や終末期の対応についての方針についてはまだまだ主治医と職員間でしっかりと話し合いができていない為、本人家族の思いも含めた方針をつくりあげ、職員全員で共有できるように努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期における対応について具体的には取り組んでいない。	○	事業所でできること、できないことを見極める為、主治医との話し合いを繰り返し行い、準備をしておきたいと考えている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在のところ例が無い。	○	研修等を通して、住み替えによるダメージを最小限にできる為にはどうしたらいいか学んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、先輩として敬う気持ちを持って対応することに心がけている。記録や個人情報については、守秘義務について徹底するようにしている。	○	時々、気になることばかけをしている職員もおり、そういうことがない様に職員に対し、常に理念に対する意識付けを徹底させていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の伝えたい事がしっかり受け止められる様に同じ目線で接し、ゆっくり話を聴くようにしており、可能な限り本人の希望に応えられるように努めている。	○	何気ない日頃の生活の中から本人の希望等を把握する事に努め、本人が安心して満足できる過ごし方ができるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースや希望に添って過ごしてもらっている。	○	事業所や職員の都合を優先しないよう職員間で協力し合い、ひとり一人のペースに合わせた支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を聞き、理容室の訪問を受けており、又は馴染みの美容室に連れて行っている。身だしなみについては本人に任せており、できないところ等は声かけしたりアドバイスしたりしている。	○	関心のない利用者の方への支援に心がけている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所ではご飯のみ炊いており、その他の食事は病院の厨房で作ってもらっている為、利用者といっしょに作ることはないが、配膳下膳をできる人に手伝ってもらっている。	○	まだまだ職員がしてしまっているところが多い為、利用者のできる力を大切に、いっしょに行っていけるよう支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日頃の会話の中で何が食べたいか等を話題にしてお楽しみおやつとして提供している。食後のタバコを楽しみにしている利用者が一人おり、気持ちよく喫煙してもらおうよう対応している。	○	もっと利用者が望む飲み物やおやつ等を取り入れ、おやつの時間がより楽しい時間となるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	数名の方が紙おむつを使用している。失禁があったり後始末がうまくできない利用者については、常に様子をみておくことや、声かけを心がけ、気持ちよく過ごしてもらうように努めている。	○	排泄パターンを把握し、更にその人に合わせた声かけや支援ができるように努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞きながら、体調やタイミングに合わせて入浴してもらっている。時間に余裕を持ち、入浴中は楽しく会話し気持ちよく入浴してもらっている。	○	現在は日中での入浴となっているが、今後は夕食後等利用者の希望に合わせた入浴をしてもらう等柔軟な対応もしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠がしっかりとれるよう心身の安定に努め、昼夜逆転とならないよう日中の休息には気をつけている。天気の良い日は、交替で布団を干したり、カバーの洗濯を行い、清潔に気持ちよく休んでもらうようにしている。	○	夜間に排尿回数が多い利用者や、眠れないと訴える利用者に対し、夜間にしっかりと睡眠がとれるような支援を考えていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事はできる限りしてもらうようにしているが、無理強いないよう本人の意思を大切にしている。	○	ひとり一人のできる事を把握し役割を持ってもらうことで、利用者が張り合いを持って楽しんで過ごしていけるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを家族や本人から預かり、事業所で管理しており、買い物等の要望があれば自由に使えるようにしている。週1回パン屋さんの訪問があり、おやつをパンを買うことが楽しみになっている。	○	お金の出し入れについても全て事業所で行っているが、今後は自分で買い物してもらったりして、お金を使う楽しみを味わってもらう等の支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物の周囲を散歩する程度は自由にもらっている。夏の暑い間はできないが、近くの公園等に職員といっしょに散歩に出かけることを日課とし、できる限り外に出かけるよう支援している。	○	ドライブ等も随時行っており、楽しんでもらっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で、行きたい所はということを出し、ひとり一人の希望を聞いている。買い物や遠くへのドライブ等の希望が聞かれており、できる限り希望に沿うよう計画を立て実施している。	○	今のところ家族もいっしょにという機会がなかなかない為、今後は積極的に家族へも協力をお願いし、家族と共に外出を楽しんでもらえるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があればいつでも電話してもらうようにしている。利用者の一人が手紙やハガキを出したり、年末年始の贈り物を欠かさずされており、一緒に対応できない部分を支援している。	○	他の利用者にも声かけし、馴染みの人へ手紙を書く等ができるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも誰でも気軽にできるようにしている。久しぶりに会う喜びを味わい、家族団欒を楽しんでもらえるように心がけている。できる限りお茶等を提供するようにしている。	○	面会に来た人達に居心地良く過ごしてもらうように、できる限りの工夫を考えていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在のところない。	○	研修や学習会等で身体拘束について理解を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけていない為、自由に建物の外へ出られるようになっており、利用者によっては建物の周りを散歩したりしている。	○	建物の外へは自由に出られても少し行くと道路につながっている為、安全のために見守りを徹底している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の居場所については常に把握するようにしており、日中でも自室にて過ごされる人についてはプライバシーに注意しながら訪室し様子をみるようにしている。	○	利用者の安全第一の対応に心がけていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の歩行、移動等に支障にならないように物を置く場所等には気をつけている。	○	今はないが、今後は異食等も想定した対応についても取り組み、しっかりした対応ができるようにしておきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に目配りを忘れず、音に対しても常に気を配るようにしている。食事時の見守り、服薬時の氏名や日付の確認等を徹底して行うように努めている。	○	特に転倒の危険は常にあり、徹底して注意を払うよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員が一度、救急法についての講習をうけているのみである。	○	全職員に必須の事だと思われる為、早急に取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自で一度だけ避難訓練を行っている。今後は防火管理者が中心になり、定期的に行う計画を立てている。	○	運営推進会議等で常に話題とし、今後は地域の人々の協力を得られるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクの可能性について等家族と共通理解し、利用者の状況について変化がみられた時は早急に連絡するようにしている。	○	ひとり一人に起こり得る種々のリスクを家族と共有理解しておき、その対応策について家族と話し合いを持ち、常にそれらを意識した支援をしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	勤務交代時に申し送りを受け、ひとり一人の状況を把握するようにしている。全職員が情報を共有するよう心がけ、異変のある利用者については細やかなケアや見守りを行う等、しっかりとした対応をしていくように努めている。	○	異変については早めの気付きと対応を行い、申し送り漏れが無いように努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は看護師がセットし、薬袋に服用中の薬が印刷されたものを貼り付け、ひとり一人が何の薬を服用しているのか把握するようにしている。服用時は確実に服用するように、利用者に応じて介助、見守りを行っている。	○	副作用について等、薬についての理解は不十分と思われる為、勉強会を計画していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日健康チェックを行い、排便状況を把握するようにしており、状況に応じて水分摂取を促したり、体を動かす機会を増やしたりしている。頑固な便秘に対しては主治医に相談し、薬の投与も行っている。	○	便秘についての勉強会を行い、ひとり一人に合った便秘改善の支援ができるよう努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の手入れや歯磨きうがい等声かけを行い、利用者に応じて介助見守りを行っている。	○	面倒くさがってなかなかしない利用者等に対し、不快な思いをさせないような支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスのとれた食事を提供している。食べやすいように刻んだり、おかゆにしたり、誤嚥しやすい食材は使用しない等、気を配ってもらっている。配膳時は、ひとり一人に応じて量を加減し盛り付けている。	○	脱水や便秘への影響が大きい為、水分摂取については特に気ををつけて声かけしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常的には職員も利用者も手洗いを励行している。職員の健康管理については特に留意し、外から感染症等を持ち込まないよう心がけている。	○	感染症マニュアルについて勉強会を行い、感染症に対する危機意識を高め、利用者の安全を守るよう努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	基本的に調理はしていないが、ご飯を炊いたり、時々おやつを作ったりする為、衛生管理には注意している。食器等は食器乾燥機で完全に乾燥するようにしている。	○	台所仕事前の手洗いの徹底、冷蔵庫や流し台等台所周辺の衛生管理を徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の段差をなくし、車椅子での出入りもできるようになっている。建物周囲には手すりが設置しており、利用者が散歩時に利用している。	○	道路から入り込んだ所にある為、出入り口がわかり易いようにしたり、親しみやすいと思われるような工夫をしていきたいと考えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールをはじめ窓が多く、明るい空間となっており、道路から入り込んでいて、夜も静かな環境となっている。	○	建物周囲にちょっとした空間があり、花を植えたりしているが、季節に応じて楽しんでもらえるようにしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はホールで過ごすことが多く、ほぼ座る位置が決まっており、利用者によっては隣同士で会話をしたりしている。居室やホール等自由に行き来し、それぞれ思い思いに過ごしている。	○	ひとり一人に合ったくつろげる空間になっているかどうか、常に気を配るように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、ダンス以外は自由に自宅から持ち込んでもらっており、一人の利用者の方が仏壇を持ち込まれている。季節外れのもの等はできるだけ持ち帰ってもらい、居室空間が狭くならないようにしている。	○	出来る限り本人と一しょに整理整頓を行い、本人の気に入るような空間にできるよう支援したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ等の臭いには、常に気を配るようにし、紙おむつ等汚物の処理を随時行っている。各部屋に空調設備のスイッチがあり、自由に操作できるようになっている。	○	利用者によっては温度調節が理解できずに使用されていることがあり、細めなチェックが必要となっている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間としてはどちらかというと狭いと思われるが、目がよく行き届くという利点があり、常に利用者を見守るよう心がけている。廊下には手すりが設置してあり、歩行時に役に立っている。	○	見守りを行い、手を出さないようにし、できる限り安全で自立した生活が送れるよう支援していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には花の名前を書いた表札をかけ、トイレ等もわかり易いように表示している。	○	表札には、花の絵を描く計画をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲には手すりが設置してあり、歩行が不安定な利用者でも散歩が楽しめるようになっている。玄関を出た所のスペースでは冬、日向ぼっこを楽しんでいる。	○	狭いながらもちょっとした花壇があり、職員が花を植えたりしているが、今後は利用者といっしょにする等取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して間もなく1年が経とうとしています。利用者様、ご家族様、地域、ご近所の方々や行政等のご支援を頂き、何とか今日に至っています。お蔭様で一部のご家族の方より、入居して明るくなった、以前より元気になった等の話を伺う事ができ、これからのケアの励みになっています。

もともと職員全員で介護職としての意識を高めていくべく勉強を重ねて、事業所のサービスをよりよくしていく事に努め、利用者様を、家族や地域の方と共に支えていきたいと思っています。

人生の先輩として常に敬う気持ちを忘れず、普通に当たり前にいっしょに過ごしていく事で、ここでの生活が楽しいと思ってくれるような事業所を目指して日々のケアに励みたいと思います。